

第5章「京都日吉やさい市」について

1. はじめに

私たちは、大学でのゼミの活動として、淀川流域の環境問題に取り組んでいる。2009年からは、その淀川の水を利用する下流域である東大阪市の皆様に水源地域のことを知っていただく、上流に位置する京都府日吉町産の野菜の即売会を開催している。

東大阪市の水道水源のほぼ全てを淀川に頼っているが、残念なことに私たちが水道を使うときには、その水がどこからやって来たかを意識することは、ほとんどない。我が国最大の湖である琵琶湖をその主たる水源とする淀川は、宇治川、木津川、桂川というそれぞれ特性をもつ3つの川が合流した、我が国では比較的流況の安定した河川で、大阪市をはじめ近畿1,400万人の水道水源として、人々の生活や都市活動を支えている。淀川上流の三流域は、琵琶湖流域の融雪期、桂川流域の梅雨期、木津川流域の台風期にそれぞれ流出が多く、互いに補いあい、なかでも琵琶湖流域の融雪期の安定した水量によって淀川の流況の安定に寄与している。そのうえ、淀川は上流に琵琶湖という面積約674平方キロメートル、貯水量約275億立方メートルの日本最大の湖を有しているため、淀川の流量調節に大きな役割を果たしている。私たちの暮らし、生命を支える水源地で丹精こめて生産された新鮮な野菜を東大阪市の皆様に召し上がっていただくことで流域の環境、ひいては地球環境について考えていただくきっかけにしたいと考えている。

しかし、このプロジェクトは学生の自分達だけの力だけでは行うことができるようなものではない。瓢箪山商店街の方々、日吉町の方々からの多大な協力を得て、このプロジェクトを進めていくことができたのだ。

即売会で販売するほとんどの野菜は日吉町の方に用意していただくことは、初めから決めていたことだったが、自分達でも何かできないかと考え、即売会の開催日が10月を予定していたこともあり、カービング用のカボチャを栽培することにした。即売会の宣伝と日記的な役割を兼ねたブログを作成し、カボチャの成長日記を付けた。しかし、実際このブログが宣伝の役割を果たしていたのかは不明である。

2010年10月17日（日）東大阪にある瓢箪山商店街（瓢箪山駅前 せせらぎ広場）で野菜販売を前年度に引き続き開催した。ここでは、その概要および成果について述べる。

2. やさい市の概要

会場となる東大阪市瓢箪山商店街は、平日でも人通りの多い地域密着型商店街で、野菜の直売市を行っている店もないので、「やさい市」の実施には非常に適した市場環境と言える。本事業では、下記の点を基本的なコンセプトとしてじっしすることとした。

- ・ 対面販売（商店街の主要な顧客層である地域住民とのコミュニケーションを重視）
- ・ パネルの展示（生産過程の写真、産地の歴史など）
- ・ エコバックの配布を通じた環境意識の啓蒙

また、本イベントの周知方法としては、前年度同様に①商店街行事での告知、②ポスター（商店街周辺および駅。1ヶ月前から掲示）、③チラシを作成し、数日前から駅周辺で配布、に加え新たに、④ブログを作成して商店街ホームページと相互リンクさせ種まきなどゼミの活動を随時更新していく、を加えた。全体のスケジュールは表 5-1 のとおりである。

表 5-1 スケジュール

7月	告知ブログ開設
8月	日吉町でのランタン（かぼちゃ）の種まき、農作業
9月	瓢箪山商店街の商業祭での告知活動
10月	やさい市

野菜の栽培

日吉町の農家のみなさんの協力を得て、本ゼミ生もかぼちゃを栽培し、やさい市当日に販売することとした。なお、かぼちゃは種子を農家の方に分けていただき、大学で苗を育てて、ある程度大きくなった段階で、お借りした畑に定植した（図 5-1）。

図 5-1 栽培風景



収支計画

本事業の収支計画は表 5-2 のとおりである。

表 5-2 収支計画表

収支の部 (目標)		支出の部 (目標)	
野菜の総売り上げ	300,000	野菜の仕入れ	150,000
協賛金	50,000	寄付金	20,000
		交通費	150,000
		来年度ゼミへの繰越金	30,000
計	350,000	計	350,000

単位 (円)

野菜の仕入れについて

野菜を仕入れるにあたり、スプリングスひよしをはじめ農家の皆さまにご協力を頂いた。10月開催ということで収穫の端境期でもあり、種類も限られている中で、地元農家の方々から「学生たちに新鮮な野菜の安全性を知ってもらいたい。そして瓢箪山商店街に買い物に来ている人達にも広めてほしい」ということで、多くの野菜を提供してもらえた。

販売した主な商品一覧

- | | | | |
|--------|---------|----------|--------|
| ・コシヒカリ | ・餅米 | ・黒豆 | ・新しょうが |
| ・ミブナ | ・素麺かぼちゃ | ・鹿ヶ谷かぼちゃ | ・バジル |
| ・すだち | ・ゴーヤ | ・ジャガイモ | ・とうがらし |
| ・茄子 | ・パプリカ | ・ピーマン | ・栗 |
| ・ほうれん草 | ・ねぎ | ・冬瓜 | ・むかご |
| ・枝豆 | ・西瓜 | ・栗かぼちゃ | ・白菜 |

計 25 種

また、日吉町の農家の方に協力していただき私たちが育てたハロウィンのランタン用のカボチャも販売前日に収穫し、販売することとした。

価格設定

販売価格については、スプリングスひよしの宇野貴子さんとの協議の結果、仕入値に 30% のマージンを上乗せして販売価格を設定することとした（仕入れ値については資料 4 を参照）。

販売開始 2 時間経過後、売れ残っている商品がある場合には、最低販売価格を仕入れ値と同じ価格まで下げ、売れ残りを出さないようにした。鮮度が重要な薬物野菜について

は買い取り販売としたが、保存のきく豆類は委託販売とし、万が一売れ残った場合にも損失とならないようにした。

野菜販売当日のスケジュール

販売当日のスケジュールは、表 5-3 のとおりである。

表 5-3 当日のスケジュール

10/17(日)
AM 7:30 集合
AM 8:00 野菜到着、準備
AM 10:00 販売開始
なくなり次第片付けてスプリングス日吉へ支払い・返品にいく
解散

やさい市当日の風景

当日は、開始時刻よりも前から多くの方が行列を作り、予定していた品物はほぼ完売となった（図 5-3）。また、ハロウィンのランタン用のかぼちゃは、お客様に下書きをしてもらい、それをもとにくりぬいて飾りを製作し大きさにより 1 個 300 円～800 円で販売した。計 20 個を収穫し、販売当日は 15 個販売することができた。また、残った 5 個については、保育士をされている方が保育園に飾りたいと申し出てくださったので寄贈することとした。

図 5-3 「やさい市」当日の風景





3. やさい市の成果と課題

ここからはやさい市の成果について記す。まず、売上は表 5-4 のとおりである。

表 5-4 売り上げ

つり銭準備金	100,000 円
野菜仕入れ金	157,001 円
総売り上げ	324,590 円
利益	67,589 円

野菜の仕入れ金についてはやさい市終了後、スプリングスひよしに支払いを済ませたので、上記のとおりである。なお、売れ残った商品は、委託販売分のみであったことから、スプリングス日吉に返品したため、その仕入れ代金は記載していない。

また、支出については表 5-5 のとおりである。

表 5-5 支出

ゼミ生の交通費	81,340 円
レンタカー（野菜の輸送費）	20,000 円
雑費等	5,000 円
合計	106,340 円

注) ゼミ生の交通費には、保津川、天若湖両プロジェクトの交通費も含む。

利益 67,589 円のうち、野菜の輸送費と雑費、計 25,000 円を差し引いた 42,589 円を後日ゼミでどう分配するか検討した。表 5-4 及び表 5-5 からわかるとおり、支出が利益を上回

ってしまったので、交通費に充てる総額を 27,500 円とし、各自がこれまでに支払った交通費の金額に応じて比例配分した。

また、寄付金を計画では 2 万円としていたが、残った 15,089 円を寄付することとした（寄付先は検討中）。

反省点および改善すべき点

反省点と改善点について、以下に箇条書きで記す。

（計画面での反省点）

- ・ 事業計画のコンセプトで掲げていた「消費者に食べ物が届くまでに排出されるCO₂量を知ってもらう」を示すことを忘れてしまい、消費者の方には、ただ学生が産地直送の野菜を販売しているという風に捉えさせてしまった。
- ・ 今年度は企業からの協賛金を集めることができず、当初の収支計画で想定していた利益を達成することができなかった。
- ・ 事前の告知、PR が行き届いていなかった。
- ・ 日吉の特産物の出荷時期を考えず販売日を決定してしまい、白菜など消費者が求めている野菜を販売することができなかった。
- ・ 前年度ゼミ生との引継ぎができてなく、瓢箪山商店街、スプリングスひよし双方にご迷惑をかけてしまった。

（販売面での反省点）

- ・ 販売時、事前に野菜の配置を考えておらず運んできた順に並べてしまい混雑を回避できなかった。
- ・ むかごなど消費者になじみのない野菜を販売した時、調理法をゼミ生の一部しか把握しておらず、説明できないという場面が多々見られた。
- ・ 鹿ヶ谷かぼちゃ、素麺かぼちゃなど一人暮らしの方には量が多すぎることになり商店街の方から指摘されるまで気付かず販売終了間際になってからカットして販売したため多くの売れ残りを出してしまった。

以上のような点を来年度ゼミ生にしっかりと引き継ぎ、改善していくようアドバイスしていきたいと思う。

また、後日、ゼミ生にやさい市の感想についてアンケートを行った。就職活動等の理由で全員が揃うことができず、13 人分しか集められなかったが、各設問ごとに記す。

問 1. やさい市を実際行ってみて、よかったと思うか？

これについては 13 人全員が YES と答えた。YES と答えないといけないと思いついた人がいるかもしれないので、次の問いでは理由を聞いてみた。

問2. それぞれ、なぜそう思うか？

- ・日常生活では普段できない体験であったから。
- ・地域の方々と触れ合うことができたから。
- ・フィールドワークならではの体験ができたため。
- ・商品の仕入れから販売までを経験できたから。
- ・今までにない経験ができ、売上げが黒字で終わったから。
- ・これからの人生において、なにかしらプラスになったと思うから。
- ・京野菜のブランド力が理解できた気がしたから。
- ・販売側の苦労や工夫の大変さが知れたから。

以上のように、各自捉え方は違うものの、体験してみてよかったと感じているといえよう。

問3. やさい市の感想、反省点を書いてください

まず、感想としては以下のようなものがあつた。

- ・予想以上に野菜が売れてびっくりした。
- ・たくさんの方々に来てもらえてよかった。
- ・日吉と瓢箪山との交流に少しは役立てたと思う。

反省点では、

- ・全員がもっと野菜について勉強するべきだった。
- ・スポンサーを得られなかった。
- ・日吉町のPRがあまりできなかった。
- ・接客の練習（調理方法の説明等）ができておらず、買いに来て頂いた方々に迷惑をかけてしまった。
- ・全体的に説明不足だった。
- ・ランタンを完売することができなかった。

などが挙げられた。

まとめ

これから、野菜市を終えて改めて商店街の方と日吉町の方にインタビューを行った内容をまとめる。

瓢箪山商店街の森さんに「なぜ私たちのプロジェクトに協力してくれたのか」をお聞きしたところ、3つの点を挙げてくださった。1つ目は、目の前のお客様を集めることが普段

の仕事である商店街の人間には思いつかない学生ならではのアイデアがあり、学生と商店街で営業する人々が互いにできることとできないことを分担しあうことができるからということ。2つ目は、学生たちが今回のプロジェクトを学業の一環とし、利益を求めることを目的としていなかったの、商店街の八百屋が定休日の日に行えば営業妨害をせずに行えるからということ。3つ目は、学生達がんばっている姿を昨年も見ているので協力しようと思えたとのことだった。

次に「野菜市を行って商店街に効果や利益があったのか」をお聞きした。これについては、1つ目に宣伝のために商店街周辺で学生が行ったチラシ配りや商店街の各店舗での宣伝により、多くのターゲットを事前に集客でき、野菜市を目当てとしたお客さんが訪れたことで商店街の他の店舗にも集客があったこと。2つ目には近年、大型スーパーや百貨店、ショッピングモールの影響で日曜日は全国的に商店街の集客数が落ち込んでいる中、日曜日に今回の野菜市を行うことで大型店などからお客さんを引き付けることができたとのことだった。

商店街は単に買い物場としてだけではなく、地域のコミュニティーの場としての機能も持っており、商店街の活性化は意味のあるものであるといえよう。

また、スプリングス日吉の宇野さんに「なぜ私たちのプロジェクトに協力してくれたのか」をお聞きした。これについては2つの点を指摘された。1つ目に、東大阪市の瓢箪山の商店街という日吉町から遠く離れた場所を借りて日吉町で収穫した野菜を販売することによって、日吉町と野菜のPRにつながるということである。2つ目にダム歴史や建設時の背景を学生や東大阪市の方に知ってもらうきっかけになればとのことだった。

戦後、たびたび行なわれた桂川の改修は、水害への抜本的な対策にはならなかった。昭和34年から、日吉町の下流にある亀岡市は3年連続で深刻な大水害に見舞われている。いずれも桂川の逆流を伴うもので、昭和35年の台風16号では、桂川の水位が戦後最高の9.2mにも達した。水害対策を求める声が増え、昭和36年、当時の建設省は、桂川上流に治水ダムを建設する計画を発表した。しかし、ダムの建設には上流、下流の利害対立や、地元の反対もあり決定には至らなかったが、桂川流域の市町村では調整が続けられ、利害関係を超えて治水問題に取り組む体制がつくられ、昭和43年、日吉町への治水ダム建設が正式に決定された。その後も地元の反対はあったものの、地道な交渉や調整が続けられ、正式決定から14年後、昭和57年に着工され、平成7年に完成した。こうしたダムのことを、このイベントを通じて下流部の東大阪市の方にもっと知ってもらうことを我々はめざしたのである。

最後に、「利益またはこのプロジェクトに協力して得たものはあったか？」と伺うと、「正直なところ、スプリングス日吉側として金銭的な利益はない。しかし、野菜を提供して下さった生産者の方々にとっては、『自分の作った野菜が大阪の人たちを買ってもらえた。食べてもらえた。』『大阪の商店街との交流がもてた。』など今後の生産へのモチベーションが上がり、自信がついた。その点に関しては大きな利益を得た。」と言って頂けた。

出展・引用元

大阪市水道局ホームページ <http://www.city.osaka.lg.jp/suido/page/0000014782.html>

日吉ダム計画

<http://www.maff.go.jp/kinki/seibi/midori/jigyou/kameoka/trivia/subject02.html>

平成22年9月15日(水)

野菜販売 事業計画書

大阪商業大学 原山ゼミ 5期生

私たちは、大学でのゼミ活動として、淀川流域の農産問題に取り組んでいます。
昨年度からは、その淀川の水を利用する下流域である東大阪市の皆登に水源地域のことも知っていたがこうなると、上流に位置する京都府日吉町産の野菜の即売会を開催しています。
東大阪市の、水道水源のほぼ全てを淀川に頼っていますが、残念なことに私たちが水道を使うときには、その水がどこからやって来たのかを認識することは、ほとんどありません。
私たちが暮らし、生命を支える水源地で丹精こめて生産された新鮮な野菜を東大阪の皆登に石の上で頂くことで、流域の農業、ひいては非農産物について考えていただくきっかけにして頂きたいと考えています。
つきましては、本事業の趣旨をご理解いただき、皆様の温かいご支援とご協力を賜りたくお願ひ申し上げます。

企画名 「^{あさい}安菜 ～あんしん、あんぞん、あすい～」

期日 10月17日 日曜日

場所 東大阪市 瓢箪山商店街 せせらぎ広場

参加スタッフ 大阪商業大学 原山ゼミ生 (4回生)

市場環境

平日でも人通りの多い地域商業型商店街です。野菜の直売市を行っている店も無いので、野菜の販売にはとても良い市場環境であるといえます。

販売コンセプト

昨年のコンセプトは「エコなベジタブル。地球にやさしい野菜を販売する。」でしたが、今年はそれに加えて私たちの口に食物が入るまでに排出されるCO₂の量を知ってもらうことにより今後の農産物を選ぶ参考にしていただくのが狙いです。

日吉の自然が育む“無農薬野菜”

東大阪の水道水は99%が淀川の水です。
その淀川の上流にあるのが京都・日吉町、
私たちの野菜のふるさとです。




京都日吉ゆさい市

収益金は森林ボランティア団体や森林保護団体などに寄付させていただきます。

10月17日(日)

会場 朝10:00～

瓢箪山駅前
せせらぎ広場

売切れ
が
免!

天幕500名様
エコバック
プレゼント!

エコバックを
お持ちください。
プレゼントは1枚10円が返券になります。

-----主催-----
大阪商業大学 原田ゼミ

資料3 趣意書

趣 意 書

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
特段のご高配を賜り感謝にたえないところであります。
この度、東大阪瓢箪山商店街におきまして、野菜販売を下記のとおり開催することとなり、準備を進めております。
つきましては、野菜販売の趣旨をご理解いただき、組織活動に温かいご支援とご援助を賜りたくお願い申し上げます。
末筆ではございますが、貴職のご繁栄を祈念し皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

平成 22 年 10 月 吉日

大阪商業大学原田ゼミナール(4 回生)

記

プロジェクト名 京都日吉やさい市

日 時 10 月 17 日 日曜日

会 場 サンロード瓢箪山 せせらぎ広場

以上

趣旨にご賛同いただける方の寄付をお願いします。

寄付金 一口 1000 円

銀行名・種目 三菱東京 UFJ 銀行 小阪支店 店番 415

口座番号 普通預金 0038776

口座名 大阪商業大学 原田ゼミナール 代表 鈴木 信一